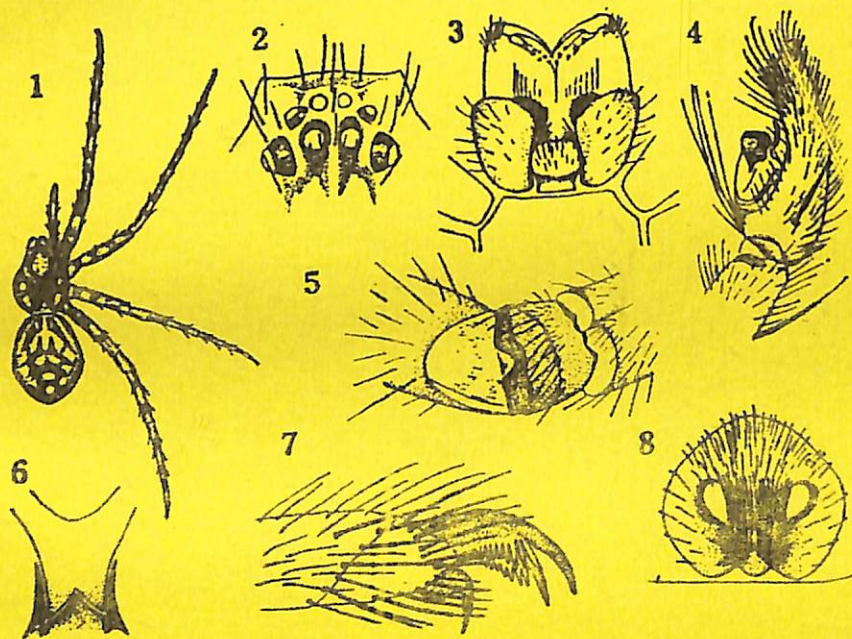


# もぐびのし

第 7 号



*Cispius orientalis* YAGINUMA,

1979

三重クモ談話会



表紙説明

*Cispius orientalis* YAGINUMA  
ミノヒダグモ (キシダグモ科)

4-V-1965, 三重県三重大平倉演習林  
(志保郡美杉村川上)にて、橋本理市氏採集。  
新種として記載された。

図は八木沼健夫氏の御厚意により、  
ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 20  
No. 2より転写したもの。

1. Dorsal view (♀)
2. Eye area (♀)
3. Mouth part (♀)
4. Palp (♂)
5. Trochanter (♀)
6. Pedicel (♀)
7. Onychium and claws (♀)
8. Epigynum (♀)

# し の び ぐ も

第 7 号

1979

- 
- 三重県下のクモ調査地についての  
Locality Codeによる検討 松本誠治 1.
- NHK教育番組「みんなの科学」の  
製作に参加して 貝谷憲治 8.
- アカマツ人工林におけるクモ相 貝谷憲治 10.
- 
- 談話会図書 19.
- 昭和54年度決算報告 20.
- 会員名簿 21.
- 

三 重 ク モ 談 話 会

# 三重県下のワモ調査地について の Locality Code による検討

松本 誠治

(杏林大学医学部生物学教室)

三重県にかかわる国土地理院発行の5万分の1地形図は、30枚にのぼる。貝  
発龜治・太田定若・橋本理市・杉永厚の諸氏および南島高校生物クラブの三重県  
下のワモ採集地は82ヵ所を数え、5万分の1地形図上にそれらを印していくと、  
30枚中20枚を必要とする程である。このほかにも三重県下でのワモを採集・  
発表された方は、越前安平・八木沼健夫・西川喜朗氏等がおり(八木沼, 1971)、  
氏らの採集地も含めれば、必要とする5万分の1地形図はもっと多くなるであ  
らう。しかし、上記82ヵ所は、貝発龜治氏のご教示によるもので、採集・調査者以  
外の者が、採集地名をたよりに推定した地点とは異なる確実なものである。以下  
は、これら確実な地点を資料として、三重県のワモ調査地について、若干の検討  
をしていきたい。

本報の基礎となった採集地を記録した5万分の1地形図をご用意下さった貝発  
龜治氏に、心から厚くお礼申し上げます。また、Locality Codeについての一  
連の試み(松本, 1978; 1979; 1980)について、多くの討論を通じ  
刺激を与えて下さった鈴木亀一・佐藤秀樹両氏に、そしてLocality Codeに  
ついて理解を示し、その検討を始めて下さった熊田憲一氏に謝意を表する。

図1は、貝発氏にご教示いただいたワモ採集地を、Locality Code (以下  
L.C. と略す) で表示した後に、それを地図上に插いたものである。縦軸の数字  
“3600-” および “3700-” は、L.C. の前半4桁の数字で、東経136°  
00' と 137°00' に一致し、横軸は、L.C. の後半4桁で、北緯34°00' と  
35°00' に一致する。メモリは5'ごとにつけてある。図1をみると、採集地は

県下全体におよび、  
 大らの採集地への  
 照会と苦勞がうかが  
 われる。

L.C.は、当該地  
 点の経緯を分の単位  
 までで表わしたもの  
 で、東経100度を越  
 える地域では、100  
 の位を省きその代り  
 に“C”を付けて、地  
 球上の地域を明確に  
 させている（Cは、  
 北半球の東経100°  
 から180°までの  
 地域を示す）。例え  
 ば、最も南西に位置  
 する採集地である南  
 牟婁郡紀宝町神内（  
 貝誌，1973；197  
 5）は、東経136°  
 00'45"，北緯  
 33°44'50"付近

であるが、氏によ、この地図上に記された調査地域は、北緯33°45'10"ぐらいま  
 までをおおっている。そのため、同地をL.C.で表示する際、〔C3600-33  
 44〕および〔C3600-3345〕とした。このように採集地をL.C.に変

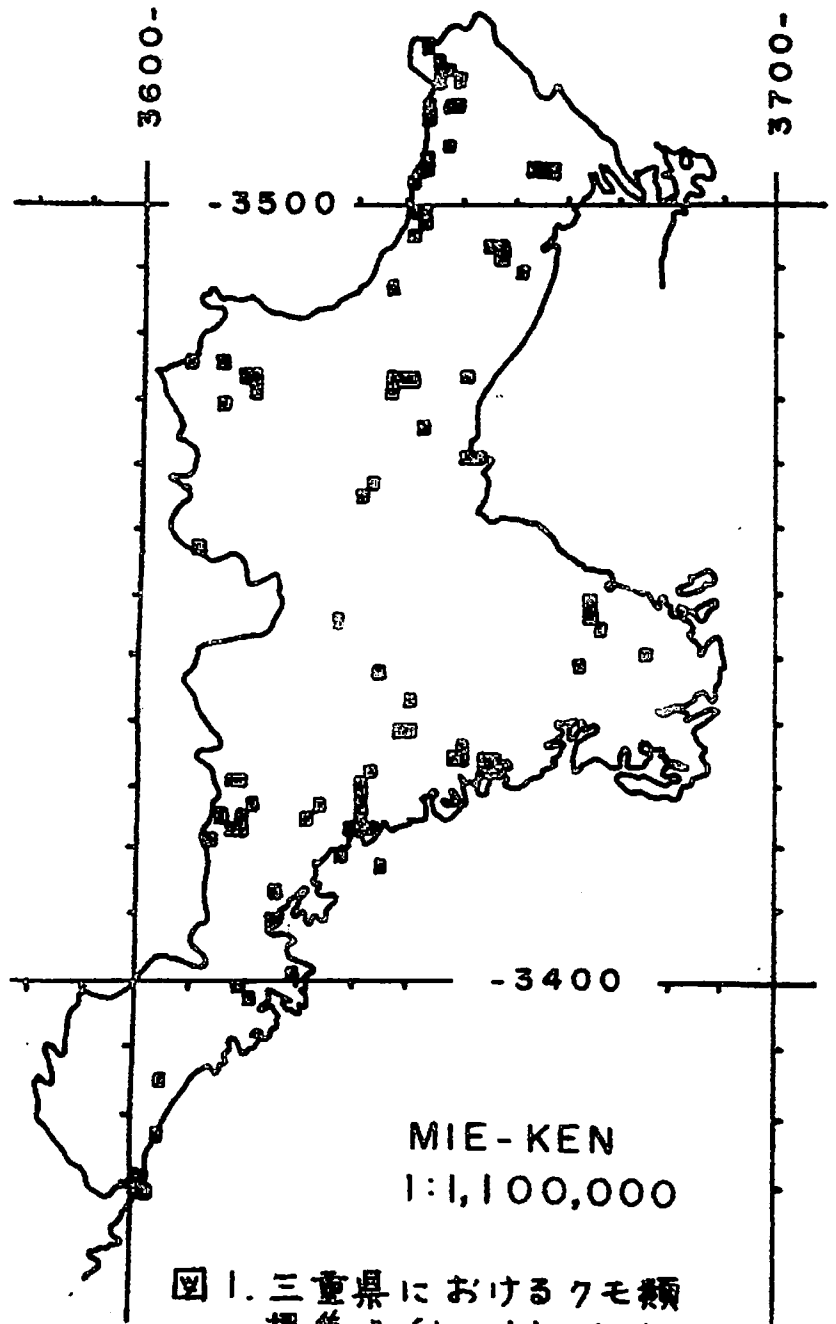


図1. 三重県におけるクモ類  
 採集地 (Locality Codeより  
 挿く)

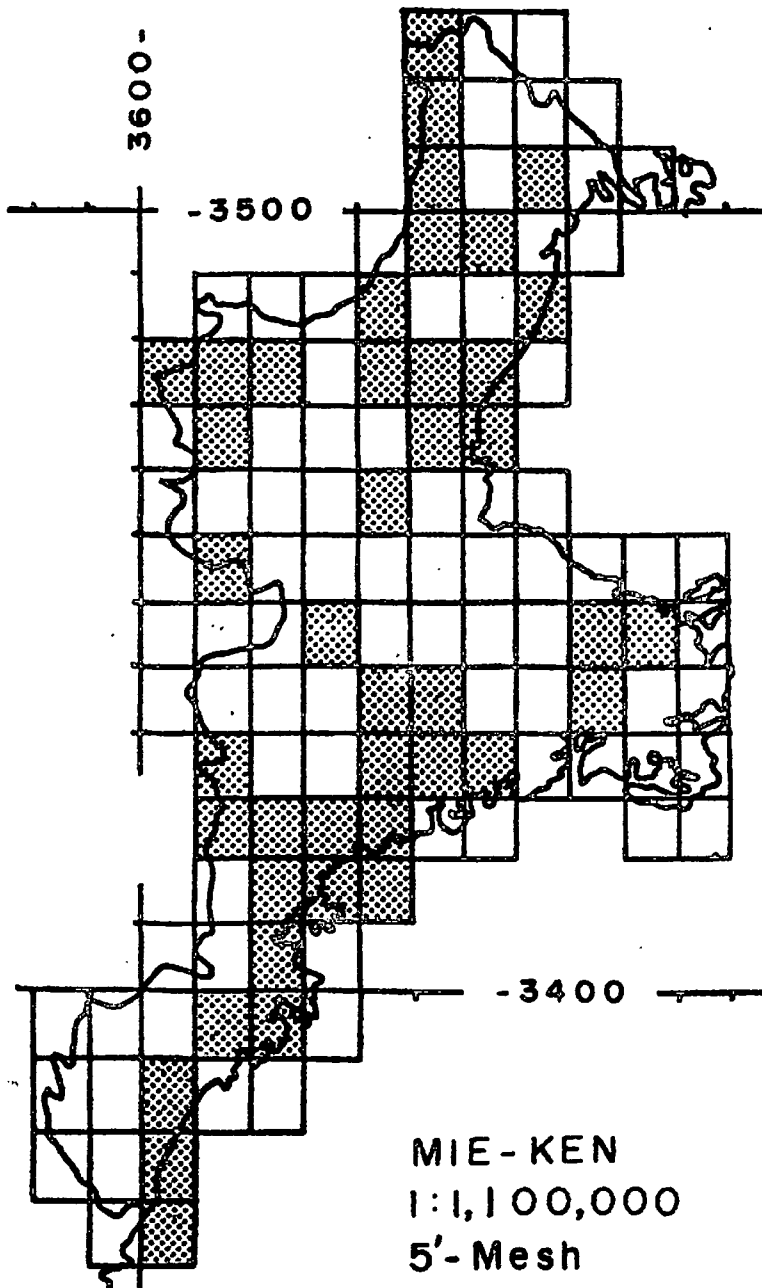


図2. 5分ごとに区切った経緯の細目  
によるクモ観採集地(図1を基に挿く)

換した後、1分ごとに切った細目をそのL.C.に従ってぬりつぶしていったのが図1である。

クモ相の解析であれば、種類ごとにこのような図を複製し、研究資料とすることになるうが、三重県での採集をしたこともない筆者がそれを行なうのは、おこがましく、遠慮すべきと考える。ここでは、採集地の、82ヵ所にものぼる量と、県下全体にわたっている量とが、相当なものであることを指摘しておきたい。

次に、経緯5分ごとの細目を抜き、その枠の中に図1に示したL.C.による点がある場

合、そこを陰にしたものが図2である。これを見ると、県中央部西北から東側に走る間隙が目立つくらいで、やはり県下全体にわたる採集地のあることが強調されてくる。このことは、経緯10分ごとに区切った図3では、さらに強調される

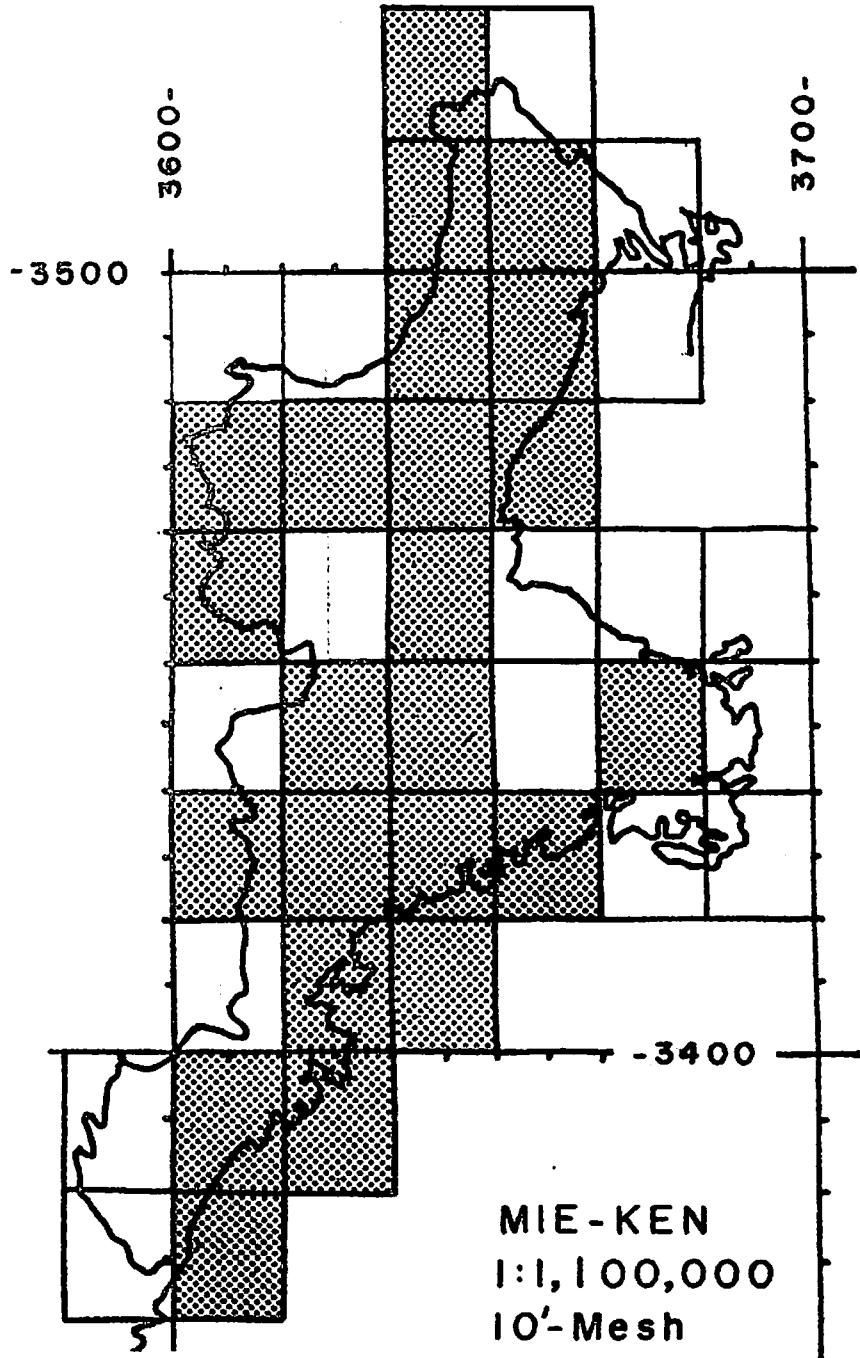


図3. 経緯10分ごとに区切った網目によるクモ類採集地(図1を基に描く)

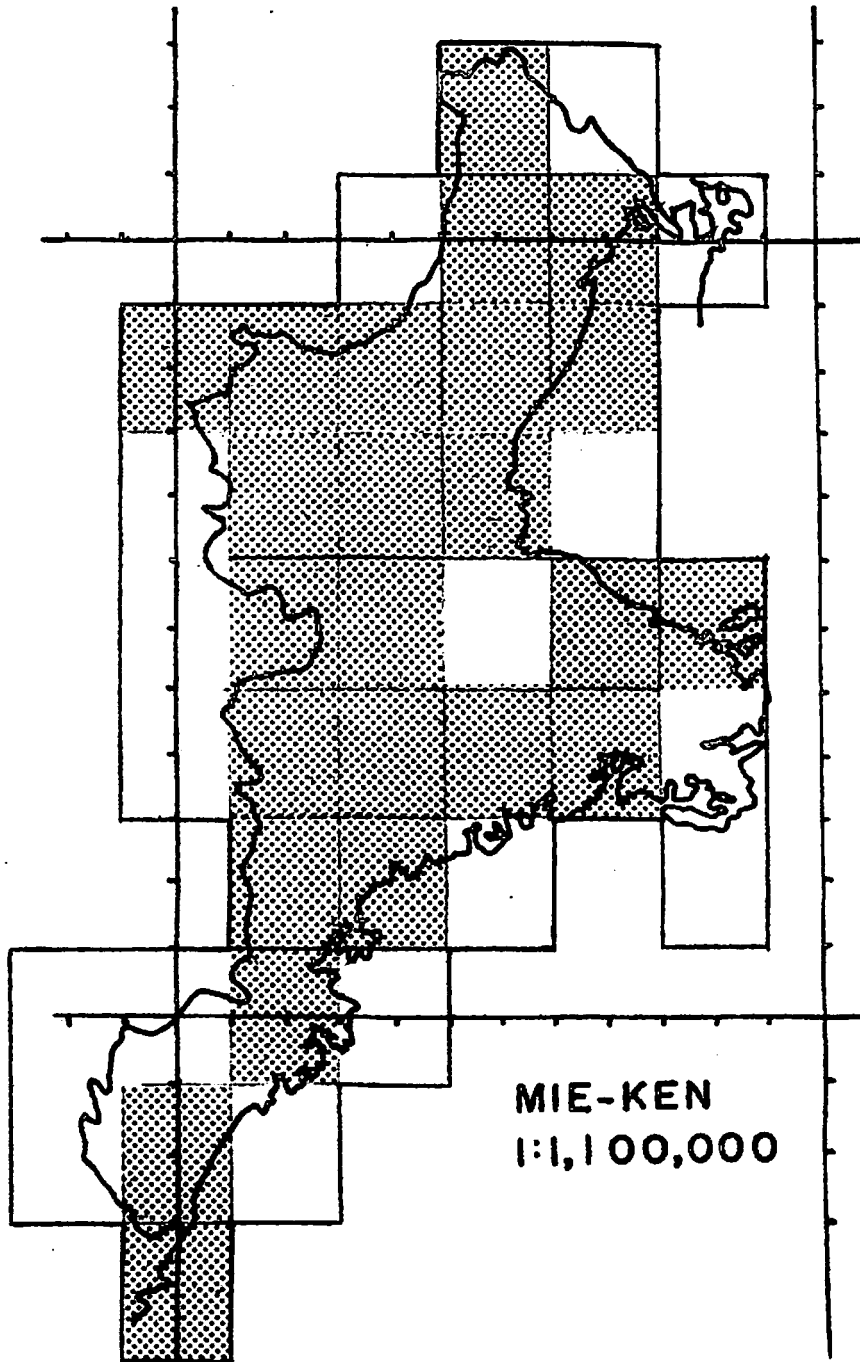


図4. 10'×10'の広さで区切った網目によるクモ類採集地(網目は、5'、15'、25'……の順で区切った。図1を基に描く)



が、逆に採集地の存在しない区画も目立ってくる。5分ごとの網目は、119個で県をおおい、採集地を持つ網目はその内の42個である。10分ごとの網目とした場合は、40個で県をおおい、その内23個に採集地が存在することになる。図2・図3のような網目はどのように作製してもさしつかえないので、試みに10分ごとではあるが網目を経緯共5分ずつずらしたものを作製してみた。図4である。図4の場合も40個の罫で県をカバーでき、採集地を持つ罫は24個となった。図3・図4を重ねあわせても、なお隙をつけられない罫がいくつかできている。それらを、5分ごとで区切った網目の最西南端のL.C.で表わすと、〔C3550-3345〕〔C3550-3350〕〔C3550-3355〕〔C3555-3355〕〔C3600-3400〕〔C3600-3420〕〔C3630-3425〕〔C3630-3430〕〔C3635-3435〕〔C3635-3510〕〔C3640-3505〕〔C3645-3410〕〔C3645-3415〕〔C3645-3500〕〔C3650-3410〕〔C3645-3415〕〔C3645-3420〕の17ヵ所であった。これらの罫内の地域を今後クモ採集地に選べば、県全体をカバーするクモ相調査が行なわれたと結論するのに重要な根拠となるものと思われる。しかしこのことが、すでに行なわれている調査の不備を示すものではなくては、前述のように、これらの採集地が県下全体にわたっていることを強調した通りである。ただ部外者である筆者が、調査地域の検討への一つの依りどころとして、L.C.による整理の結果を紹介したものにはすぎない。

### 引用文献

- 貝野勉治(1973) 三重県南部地方の真正蜘蛛類目録。三重生物、(23)  
 : 49-64  
 —— (1975) 三重県南部地方の真正蜘蛛類目録(追加)。しのびぐも、  
 (2): 12-18

松本誠治(1978) 生物の採集地表記法について. 第7回三会合同例会講演  
要旨, : 1

—— (1979) 生物の採集地の記号表示(Locality Code)について.  
日本生物地理学会会報, 34(3): 21-27

—— (1980) 生物環境研究会報告. 第三報. II. 研究所境内の樹木高  
所部から得られた昆虫およびワモ類, ならびに市街地の街路樹上の動物調  
査のための若干の資料. 日本私学教育研究所・調査資料,

八木沼健夫(1971) 日本の真正蜘蛛類目〔II〕. 追手門学院大学部紀要,  
(5): 161-175

NHK教育番組「みんなの科学」の  
製作に参加して

貝 登 憲 治

昨年(1979年)の2月下旬にNHK中部本部製作部から「みんなの科学」——自然を探る——でコモリグモの生態について番組をつくりたいので協力して欲しいという電話があった。全く思いかけないことであり、沢山専門家の方もみえるのだからとお断りしようと思ったが、四日市の生物調査のときにお世話になった前三重大学教授山下善平先生の御紹介であることを聞き、全く自信がなかったが、とにかく、協力させていただくことにした。

単なるクモのコレクションの域を出ない私にとって、一つのクモの生態を短期間に、失敗なくとらえることは、どういふできそうにないように思えた。そこで、専門家の大隅の田中穂積氏や東京の新海兼一氏に御無理をいって、いろいろお教えをいただき、その後、テレクターのA氏と内容について検討を行った。番組は「虫の育児法」シリーズの2回目として行い、5月28日(月)～5月31日(木)、野外での収録、6月11日(月)、スタジオでのビデオ撮り、6月13日(水)、放送ということであった。それで、時期を考えて、内容を子育てに絞り、結局、①、コモリグモの説明 ②、いろいろなコモリグモ ③、求愛動作、④、産卵 ⑤、卵の保持とそれに関する実験、⑥、孵化の様子 ⑦、子育て行動 ⑧、他のクモの卵のう保護の様子 ⑨、タランチュラについて ⑩、まとめという筋で取り組むことにした。

3月中旬にさっそく野外で観察を行った。ウツキコモリグモが多く見られ、既に半数ほどのものは卵のうを保持していたので、これを中心に収録することに決め、100頭ほどを採集し飼

育に入った。餌は釣りに使う、いわゆる「さば虫」と呼ばれるハエのうじを使ったがこれはすぐに綿栓へもぐりこんで虫蛹化してしまうので困った。クモは4月上旬には次々と孵化して子守り行動にはいった。収録までまだ2カ月近くあり、採集しては子守り行動が、終わってしまうことを繰り返し、随分と苦勞した。この間に、産卵は午前0時ごろから始まり、約1時間半ほどかかることや、卵のうの変化の様子、子守りの状態等を観察した。収録前日の5月27日(日)には、ハリケコモリクモ、チビコモリクモ、キクヅキコモリクモ各10頭と、子守り行動中のウツキコモリクモ15頭、産卵しそうなウツキコモリクモ50頭をさらに採集し、伊勢神宮の川原でキシベコモリクモが活動しているのを確認して、準備は一応整った。

収録は、各種コモリクモの様子、産卵の様子、卵の保持とチョーク等を使ったそれに関する実験、子守り行動の様子、コカネクモ、ササクモ等他のクモの様子について行えた。コモリクモの様子は、動きが違いのでもなかなかうまくカメラに収まらなかった。産卵は、やっとこまで1個体が産卵してくれ、とうにか収録できた。また、チョークを使った実験は個体によって反応がさまざまで意外と手間がかかった。ここで収録できなかったものはパネルや私のスライドを使うことにした。スタジオでのビデオ撮りは、内容打合せ、リハーサルの後、本番に入ったが、筋を間違えずに、しかも言い落しのないようにすることで精一杯で、上がっている余裕もないくらいであった。

とにかく、短期間で、充分なものにはならなかったが、一つの番組ができるまでの苦勞や、今までの自分の観察が随分と粗雑であったことがわかったこと、等、大きな収穫があった。

最後に、この貴重な経験をする機会を与えてくださった山下善平先生、終始、懇切丁寧な御助言を下さった田中穂積氏、新海栄一氏、私の転勤後も、撮影のために気安く農園や実験室をお貸し下さった四日市農芸高校の先生方、採集に積極的に協力して下さいました四日市農芸高校生物部の皆さんに感謝いたします。

## 1. はじめに

森林の高木層における生物相は山下らのスモーク法を用いた調査から、下層植生のそれとは大きな相違があることが明らかにされている。また、1978年6月～7月にマツクイムシ防除のための薬剤散布が生物に及ぼす影響についての調査が行われ、特に真正クモ目、膜翅目、おしひ双翅目にきわめて大きな被害が出るということが報告されたが、筆者は幸運にも、この調査に参加する機会を得た。そして、こゝで行われた動力噴霧器を用いた薬剤の地上散布は、先のスモーク法とはほぼ同一方法であるとみなせるので、この調査時の資料をもとにして、①、アカマツ人工林の高木層と下層植生でも、生物相に相違があるかどうかということとクモ類の立場から ②、三重県のアカマツ人工林のクモ相はどのようなものかという点から、ここに、まとめをおこなうことにした。

本報告をまとめるにあたり、懇親丁寧な御助言をいただいた前三重大学教授山下善平先生に深く感謝の意を表します。

## 2. 調査方法

## (1). 調査場所

三重県四日市市山田町地内にある約0.1haのアカマツ人工林で、高木層は樹高4～8mのアカマツであり、下層植生は高さ約1.5m以下のススキ、ネザサ、ヤマツツジ、ヒサカキ、ヤマウルシ、サルトリイバラ等で構成されている。

## (2). 薬剤散布状況 おしひ調査日、調査方法。

・薬剤はNAC剤(テナポン)50%水知剤の50倍溶液で、1978年6月5日13時13分～40分に動力噴霧器を用いて、地上より散布された。

・調査は薬剤散布前々日の6月3日より7月28日までの間で行った。



1m x 1m のトラート10個を地上約1mの高さに適宜おき、散布後から7日目までに落下したクモを採集し、これを高木層のクモとした。また、期間中に7回、直径42cm、深さ50cmの捕虫網を用いて林床と50回スワイプして採集し、これを下層のクモとした。さらに、クモ相を調べるためにヒートリング法、ベイトトラップ法でも採集した。

### 3. 調査結果 および考察

#### (1). アカマツ人工林のクモ相.

この調査で採集されたクモは、1404頭、19科64属85種であった。ゆずり夏の2ヵ月足らずの採集のため、種類数は少なかった。

目録の配列や使用した学名、和名は、日本産真正蜘蛛類目録（八木沼健夫著：1977）にしたかった。

#### I. Ctenizidae トタテクモ科

1. *Ummidia fragaria* (DÖNITZ, 1889) キノホリトタテクモ

#### II. Uloboridae ウズクモ科

2. *Miagrammopes orientalis* BÖSENBERG et STRAND, 1906  
マキキクモ

3. *Uloborus sybotides* Bös. et STR., 1906 カタハリウズクモ

#### III. Pholcidae コウレイクモ科

4. *Pholcus crypticolens* Bös. et STR., 1906 コウレイクモ

#### IV. Theridiidae ヒメクモ科

5. *Achaearanea asiatica* (Bös. et STR., 1906) キヒメクモ

6. *A. tepidariorum* (C. KOCH, 1841) オオヒメクモ

7. *Anelosimus crassipes* (Bös. et STR., 1906) アシアトヒメクモ

8. *Argyrodes fur* Bös. et STR., 1906 フタオイソウロウクモ

9. *Dipoema castrata* Bös. et STR., 1906 ホカシミジンクモ

10. *D. mustelina* (SIMON, 1888) カニシミジンクモ

11. *Theridion chikunii* YAGINUMA, 1960 バラキヒメクモ

12. *T. japonicum* Bös. et STR., 1906 ヒメクモ

13. *T. sterninotatum* Bös. et STR., 1906 ムナホシヒメグモ
14. *T. subadultum* Bös. et STR., 1906 コケヒメグモ
15. *T. sudabides* Bös. et STR., 1906 ヨツコブヒメグモ
16. *T. subpallens* Bös. et STR., 1906 ハイロヒメグモ
17. Theridiidae Gen. et sp.  
 V. Linyphiidae サラグモ科
18. *Linyphia oidedicata* (HELSDINGEN, 1969) ヘリジロサラグモ
19. *Neolinyphia japonica* OI, 1960 ツリサラグモ
20. *Meioneta concava* OI, 1960 クボミケシグモ
21. *M. sp.*
22. *Strandella quadrimaculata* (UYEMURA, 1937) ヨツホシサラグモ  
 VI. Erigonidae コサラグモ科
23. *Diplocephaloides saganus* (Bös. et STR., 1906) ハラジロムナキグモ
24. *Erigonidium graminicola* (SUNDEVALL, 1829) クロナンキングモ
25. *Nematogmus sp.*
26. Erigonidae Gen. et sp.  
 VII. Mimetidae センショウグモ科
27. *Ero japonica* Bös. et STR., 1906 センショウグモ
28. *Mimetus testaceus* YAGINUMA, 1960 オオセンショウグモ
- VIII. Araneidae コガネグモ科
29. *Araneus viridiventris* YAGINUMA, 1969 ハラビロイトリオニグモ
30. *Neoscona subpullata* (Bös. et STR., 1906) ヘリジロオニグモ
31. *N. scylla* (KARSCH, 1879) ヤマシロオニグモ

32. *N. scylloides* (Bös. et STR., 1906) サツミミタマシ
33. *Hypsosinga sanguinea* (C. KOCH, 1845)  
シロスジショウジョウグモ
34. *Argiope bruennichii* (Scopoli, 1772) ナカコガネグモ
35. *Chorizopes nipponicus* YAGINUMA, 1963  
ヤマトカナエグモ
36. *Cyclosa sedeculata* KARSCH, 1879 ヨツテゴミグモ
37. *Cyrtarachne bufo* (Bös. et STR., 1906) トリノフシタマシ
38. *Cyrtophora moluccensis* (DOLESCHALL, 1857)  
スズミグモ
39. *Nephila clavata* L. KOCH, 1878 ジョウグモ
- IX. Theridiosomatidae カラカラグモ科
40. *Ogulnius pullus* Bös. et STR., 1906 ヤマジグモ
- X. Tetragnathidae アシナカグモ科
41. *Leucauge magnifica* YAGINUMA, 1952.  
オオシロカネグモ
42. *L. subblanda* Bös. et STR., 1906 ユシロカネグモ
43. *L. subgemma* Bös. et STR., 1906 キララシロカネグモ
44. *Tetragnatha praedonia* L. KOCH, 1878  
アシナカグモ
45. *T. squamata* KARSCH, 1879 ウロコアシナカグモ
- XI. Agelenidae タナグモ科
46. *Agelena limbata* THORELL, 1879 クサグモ
47. *A. opulenta* L. KOCH, 1878 コクサグモ
48. *Coelotes* sp.
- XII. Pisauridae キシダグモ科
49. *Dolomedes sulfureus* L. KOCH, 1878  
イオウイロハシリグモ
50. *Pisaura lama* Bös. et STR., 1906 アスマキシダグモ

XIII Lycosidae コモリグモ科

51. *Pardosa laura* KARSCHE, 1879 ハリケコモリグモ  
 52. *Pirata clercki* (Bös. et STR., 1906) クラーグコモリグモ  
 53. *P. piratooides* (Bös. et STR., 1906) イモコモリグモ

XIV. Oxyopidae ササグモ科

54. *Oxyopes sertatus* L. KOCH, 1878 ササグモ

XV. Thomisidae カニグモ科

55. *Misumenops tricuspidatus* (FABRICIUS, 1775) ハナグモ  
 56. *Oxyptila decorata* KARSCHE, 1879 キハダカニグモ  
 57. *Oxytate striatipes* L. KOCH, 1878 ワカバグモ  
 58. *Philodromus auricomus* L. KOCH, 1878 キシロエヒグモ  
 59. *P. spinatarsis* SIMON, 1895 キハダエヒグモ  
 60. *P. subaureolus* Bös. et STR., 1906 アサヒエヒグモ  
 61. *Thomisus labefactus* KARSCHE, 1881 アズナグモ  
 62. *Tibellus tenellus* (L. KOCH, 1876) シヤコグモ  
 63. *Tmarus piger* (WALCK, 1802) トラフカニグモ  
 64. *Xysticus croceus* FOX, 1937 ヤシロカニグモ

XVI. Salticidae ハイトリグモ科

65. *Carrhotes xanthogramma* (LATREILLE, 1819) ネコハイトリ  
 66. *Dendryphantès atratus* (KARSCHE, 1881) カラスハイトリ  
 67. *Euophrys* sp. イナズマハイトリ(近似種)  
 68. *Euarcha albaria* (L. KOCH, 1878) マミジロハイトリ  
 69. *Hasarius doenitzii* KARSCHE, 1879 テーニツハイトリ  
 70. *Jotus* (?) *difficilis* Bös. et STR., 1906 マカサアサヒハイトリ  
 71. *Laufeia aenea* SIMON, 1888 イキヌハイトリ

72. *Marpissa pulla* (KARSCH, 1879) ヨダシハエトリ  
 73. *Plexippus(?) annulipedis* SAITO, 1939 マダラスジハエトリ  
 74. *P. setipes* KARSCH, 1879 ミスジハエトリ  
 75. *Sitticus* sp.  
 76. *Telamonia(?) bifurcilinea* Bös. et STR., 1906  
 キアシハエトリ

XVII. Clubionidae フクログモ科

77. *Chiracanthium eutittha* Bös. et STR., 1906  
 アシナカコマダグモ  
 78. *Clubiona corrugata* Bös. et STR., 1906 コフクログモ  
 79. *C. jucunda* (KARSCH, 1879) ヤハズフクログモ  
 80. *C. vigil* KARSCH, 1879 ムナアカフクログモ  
 81. *C.* sp.  
 82. *Itatsima praticola* (Bös. et STR., 1906) イタダグモ  
 83. *Trachelas japocinus* Bös. et STR., 1906 ネコグモ

XVIII. Ctenidae シボグモ科

84. *Anahita fauna* KARSCH, 1879 シボグモ

XIX. Gnaphosidae ワシグモ科

85. *Poecilochroa hosiziro* YAGINUMA, 1960  
 ホシジロトンビグモ

(2). 高木層と下層植生のクモの比較.

高木層のクモにはコドラート中へ落下したものをよとめると次の  
 10科31属37種であった.

マキキグモ、カタハリウスグモ、オオヒメグモ、  
 アシフトヒメグモ、フタオイソウロウグモ、ヒメグモ、  
 ムナホシヒメグモ、コケヒメグモ、ヒメグモ科SP(幼体)  
 サラグモ科SP(幼体)、クロナンキングモ、*Nematogmus* sp.  
 ハラビロミドリオニグモ、ヤマシロオニグモ、シロスジジョウジョウグモ



ヤマトカナエグモ、 ヨツテゴミグモ、 スズミグモ (幼体)  
 ジョロウグモ、 コシロカネグモ、 キララシロカネグモ  
 アシナカグモ、 クサグモ、 コクサグモ、  
 キハダカニグモ、 トラフカニグモ、 ネコハエトリ、  
 カラスハエトリ、 イナヅマハエトリの近似種、 テーニツツハエトリ  
 エキスハエトリ、 *Sitticus* sp.、 ハエトリグモ科 sp (幼体)  
 ヤハズフクログモ、 ムナアカフクログモ、 *Clubiona* sp.  
 ネコグモ、

次に両層の優位種をまとめると下表のようになる。

高木層	下層植生	対照区 <sup>*</sup> の下層植生
ヤハズフクログモ	カタハリウスグモ	ヒメグモ
ジョロウグモ	ヒメグモ	ササグモ
スズミグモ (幼体)	ユウレイグモ	カタハリウスグモ
ムナボシヒメグモ	コシロカネグモ	コシロカネグモ
カラスハエトリ	ヤミイロカニグモ	カニミジングモ
ハラビロミドリオニグモ	イオウイロハシリグモ	キララシロカネグモ
コケヒメグモ	ワカバグモ	ヤミイロカニグモ
イナヅマハエトリの 近似種	カニミジングモ	マカネアサヒハエトリ
	アサヒエビグモ	ジョロウグモ
		アサヒエビグモ
		コフクログモ
		キアシハエトリ
		ワカバグモ

<sup>\*</sup>調査区から北へ約1.4km離れたアカマツ人工林で同一日、  
 同一調査方法にて採集。

まず、調査区と対照区の下層植生のクモを比較すると表のと  
 く対照区の方が調査区よりも優位種が多く、構造も複雑であ

ると判定できた。これは、受光量、植生、湿気等の違いや、薬剤の影響も出ているためであろうが、今ここで、両区間のすみわけ度、即ち、ある種のクモがどちらの環境をより好むかということと、優位種、およびそれに近い種について、調べてみると、ササグモ、マカネアサヒハエトリ、コフクログモは、薬剤散布前の調査も含めて対照区の方に多く分布している。しかし、全体的には、18種中、61%にあたる11種のものが両区で均等に分布しているときをなすことができ、優位種以外のクモについても同様の結果が得られた。これらのことから、概して調査区の下層植生のクモ相は、薬剤の影響も比較的受けておらず、また一般的なアカマツ林の下層植生のクモ相を示しているものといえる。

そこで、次に調査区の下層植生と高木層のクモ相と比較すると、表のごとく優位種は明らかに異なっている。また、同様に優位種と、それに近いクモについてすみわけ度を調べると、わずか19種中、11%にあたる2種(コシロカネグモ、ムナボシヒメグモ)のクモしか均等分布しておらず、クモ相は、はるりと違いのあることがわかる。ヤハズフクログモ、スズミグモ(幼体)、イナヅマハエトリの近似種、ハラビロミドリオニグモは、高木層のみから採集され、逆に、ユレイグモ、イオウイロハシリグモ、ヤミイロカネグモ、カニミジングモ、アサヒエビグモ、ワカバグモは、高木層からは全く採集されなかった。ヤハズフクログモは冬期の地上1mと3mの高さにおけるバンディング法調査でもかなりの個体が採集されており、樹上に多いクモといえよう。スズミグモの成体は三重県ではアカマツ林内で多くみられるが、幼体は比較的上層にいたることがわかる。カタハリウスグモは通常、地表近くで多くみかけるが、上層にも少しはいることがわかった。イナヅマハエトリの近似種は、私は今回のこの調査法ではじめて採集できたクモでやはり樹上に生息しているものといえよう。

以上、夏季の短期間の調査ではあるが、アカマツ人工林の高木層と下層植生の間におけるクモ相には、はっきりと相違があることがわかった。

#### 4. まとめ

1. 短期間の調査で不十分であるが、三重県のアカマツ人工林のクモとして、19科64属85種が確認できた。
2. アカマツ人工林高木層のクモとして、10科31属37種が確認できた。
3. 高木層と下層植生のクモ相を比較すると、共通種はわずか11%しかなく、構造に明らかな相違があることがわかった。ヤハズフクロクモ、スズミクモ(幼体)、イナヅマハエトリの近似種、ハラヒロミドリオニクモは高木層のみから採集された。

#### 5. 参考文献

- 八木沼健夫, 1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 大阪, 保育社  
——— 1977. 日本産真正蜘蛛類目録. *Acta Arachnol.*,  
27 (special number): 367—406  
山下善平, 1978. 森林の樹上に虫を求めて. *自然*, (10):  
54—63  
山下善平他, 1978. マツクイムシ防除にともなう薬剤散布安全確認調査報告書. 三重県自然科学研究会

# 談話会図書

各方面から談話会へ、いろいろな文献を寄贈していただきました。せいぜい利用して下さい。貸出希望をされる方は事務局まで連絡して下さい。

- 50. 九州クモの会会報(第5号)
- 51. 野生生物(1979/3号)
- 52. 朝日新聞(昭和32年11月22日版の一部)  
[99度中にふったクモの系の記事]
- 53. KISHIDAIA No. 44
- 54. HEPTATHELA vol 1. No. 2. 1979
- 55. 九州クモの会会報(第6号)
- 56. 国道291号自然環境調査報告書

大野正男

- 57. 道路交差点付近の街路樹より採集  
された動物について。

松本誠治・関下俊英

- 58. ATYPUS No. 74 1979
- 59. ACTA ARACHNOLOGICA XXVIII No. 2 1979
- 60. HEPTATHELA vol 1. Supplement (I) 1979
- 61. ATYPUS No. 75 1979
- 62. 生物の採集地の記号表示(Locality Code)  
について。

松本誠治

- 63. マツクイムシ防除にヒモなる薬剤散布安全  
確認調査報告書 1978

昭和54年度決算報告

収入の部 56,682 円

前年度繰越金 682

会費 18,000 (500円×10人 + 1,000円×13人)

寄附 38,000 ( 宇部蜘蛛懇談会 35,000  
西川喜朗氏 500  
鵜丹谷充氏 2,500 )

支出の部 16,000 円

機関誌第6号分

製本代 4,800

送料・通信費 3,080

ハガキ代 420

機関誌第7号分

上質紙・厚紙代 5,400

機関誌第8号分

厚紙代 2,300

残高 40,682 円

昭和55年3月31日

上記の通り相違ありません。

貝登憲治

。会費領収 (敬称略)

[昭和51年度] 石原重昭, 西川喜朗

[昭和52年度] 石原重昭, 西川喜朗

[昭和53年度] 孫福正, 市橋 甫, 石原重昭  
西川喜朗, 松本誠治, 鵜丹谷充

[昭和54年度] 孫福正, 市橋 甫, 石原重昭  
西川喜朗, 松本誠治, 石田昇三

[昭和55年度] 高橋米夫, 鵜丹谷充  
市橋 甫, 石原重昭, 松本誠治  
石田昇三, 鵜丹谷充



## 編集後記

気候も春めき、野外ではクモの活動が活発になってきました。本年度も「しのびぐも」が完成しましたのでお送りします。

松本氏から採集地の記号表示法についての解説とこれを用いて三重県の今までの採集結果を検討したものをお寄せいただきました。今後の採集・調査の参考にして下さい。三重県勢の活動は今一つパツとほませんが、来年度も頑張っていきたいと思っております。

しのびぐも 第7号 1979

昭和55年4月5日印刷

昭和55年4月15日発行

編集者

太田定浩

橋本理市

貝登憲治

発行者

太田定浩

発行所

三重クモ護話会

三重県鳥羽市安楽島町

鳥羽高校内

TEL. (05992) 5-2935